

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
富士リハビリテーション専門学校	平成17年3月25日	学校長 内田 成男	〒417-0061 静岡県富士市伝法2527-1 (電話) 0545-55-3888				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人森島学園	平成13年3月27日	理事長 森島 康之	〒434-0038 静岡県浜松市浜北区貴布祢232-3 (電話) 053-585-1333				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	作業療法学科	平成19年文部科学省 告示第20号		—		
学科の目的	豊かな人間性と発想力を備えたリハビリテーションのプロフェッショナルを育成。 地域のリハビリテーション医療を支える作業療法士の養成。						
認定年月日	平成 27 年 2 月 25 日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3,285時間 (127単位)	1,710時間 (85単位)	540時間 (19単位)	1,035時間 (23単位)	0時間 (0単位)	0時間 (0単位)
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
120人	93人	0人	6人	25人		31人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1学期： 4月1日 ～ 9月20日 ■ 2学期： 9月21日 ～ 3月31日 ■ 3学期： 		成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成績表 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ■ 成績評価の基準・方法 <p>定期試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して成績評価を行う。 成績はA,B,C,Fの4段階で、C(60点以上)以上が合格となる。 なお、授業出席時数が所定の授業時間の2/3(臨床実習においては3/4)に満たない場合は成績評価を受けることはできない。</p>			
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年初： 4月1日 ■ 夏季： 8月1日～8月31日 ■ 冬季： 12月25日～1月7日 ■ 学年末： 3月21日～3月31日 		卒業・進級条件	<p>進級においては、当該学年で開設している科目を全て合格すること。 卒業においては、在籍学科で開設している全ての科目を合格すること。 上記の基準をもって判定会議で協議し、学校長が認定を行う。</p>			
学修支援等	<ul style="list-style-type: none"> ■ クラス担任制： 有 ■ 個別相談・指導等の対応 <p>学業不振、学校の規則に適応できない、などが長期欠席の原因になりやすい。個別の学習指導や面談など行い、原因の解消に努める。保護者への連絡も行い、家庭での状況を把握しつつ対応する。 臨床心理士による学生相談の設置</p>		課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課外活動の種類 新入生宿泊セミナー 市民マラソンのコンディショニングブース協力、ボランティア活動 等 ■ サークル活動： 有 サッカー部、野球部、写真部 ボランティアサークル、スケッチボール部、バレーボール部、ダンス部 等 			

就職等の状況 ※2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主な就職先、業界等 (平成30年度卒業生) 総合病院・リハ病院・介護老人保健施設・精神科病院 	<p>主な学修成果 (資格・検定等) ※3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国家資格・検定/その他民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> </tr> <tr> <td>作業療法士国家試験受験資格</td> </tr> <tr> <td>種類</td> </tr> <tr> <td>②国家資格・検定のうち修了と同時に受験資格を取得するもの</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> </tr> <tr> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>20名</td> </tr> </table>	資格・検定名	作業療法士国家試験受験資格	種類	②国家資格・検定のうち修了と同時に受験資格を取得するもの	受験者数	24名	合格者数	20名					
	資格・検定名															
作業療法士国家試験受験資格																
種類																
②国家資格・検定のうち修了と同時に受験資格を取得するもの																
受験者数																
24名																
合格者数																
20名																
<ul style="list-style-type: none"> ■ 就職指導内容 求人情報提供・就職説明会開催・履歴書作成指導・面接指導等 <table border="1"> <tr> <td>■ 卒業者数</td> <td>24 人</td> </tr> <tr> <td>■ 就職希望者数</td> <td>20 人</td> </tr> <tr> <td>■ 就職者数</td> <td>20 人</td> </tr> <tr> <td>■ 就職率</td> <td>100 %</td> </tr> <tr> <td>■ 卒業者に占める就職者の割合</td> <td>83 %</td> </tr> <tr> <td>■ その他 (任意) ・進学者数</td> <td>0 名</td> </tr> <tr> <td>・その他</td> <td></td> </tr> </table> <p>(平成30年度卒業者に関する 令和1年5月1日 時点の情報)</p>	■ 卒業者数	24 人	■ 就職希望者数	20 人	■ 就職者数	20 人	■ 就職率	100 %	■ 卒業者に占める就職者の割合	83 %	■ その他 (任意) ・進学者数	0 名	・その他			
■ 卒業者数	24 人															
■ 就職希望者数	20 人															
■ 就職者数	20 人															
■ 就職率	100 %															
■ 卒業者に占める就職者の割合	83 %															
■ その他 (任意) ・進学者数	0 名															
・その他																
中途退学者の 現状	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中途退学者 11 名 ■ 中退率 12.22 % <p>平成30年4月 1日時点において、在学者 90 名 (平成30年4月1日入学者含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 79 名 (平成30年3月31日卒業者含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中途退学の主な理由 学業不振、学生生活への不適合等 															
経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中退防止のための取組 個別の学習指導、面談 (個人・保護者)、カウンセリング、補習、学費相談 (提携教育ローン、分納相談 等) 初年次教育 															
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 入学金優待制度 本校卒業生、在校生の家族 (配偶者、兄弟姉妹など) が入学する際に優遇される制度 															
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遠隔地サポート制度 本校が指定する遠隔地に在住、または遠方のため下宿を伴う学生を対象に月額3千円を補助。対象者はJR又は東名バスの公共交通機関を利用する者に限る。 															
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作業療法学科遠隔地サポート制度 指定校限定のサポート制度。遠隔地に在住し、作業療法学科を指定校推薦で出願する必要があります。推薦基準があります。(月額2万円) 															
	<ul style="list-style-type: none"> ■ スカラシップ・チャレンジ 出願時にスカラシップ・チャレンジで受験をし、学力・人物ともに優秀な学生にスカラシップ (特別給付金) を給付する制度。 															
<ul style="list-style-type: none"> ■ 成績優秀者スカラシップ 1年次、または2年次の学業成績が優秀、かつ人物に優れた学生を進級時に表彰し副賞としてスカラシップ (特別給付金) を給付。 																

第三者による学校評価	<p>■ 民間の評価機関等からの第三者評価： 有</p> <p>https://www.morishima.ac.jp/fuji/introduction/estimation/</p>
当該学科のホームページURL	<p>URL : https://www.morishima.ac.jp/fuji/occupational_therapy/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日 (※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況 (※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3) 上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果 (※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

<p>1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係</p>
<p>(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>作業療法士養成は、実際の患者さんに検査・治療を行う授業（臨床実習）が不可欠なため、企業等（臨床実習施設である病院等）との連携が必要となる。教育課程の編成においては、主に臨床実習の授業内容について企業等の意見を取り入れることを基本方針とし、教育課程編成委員会に臨床実習施設から委員を招聘している。</p>
<p>(2) 教育課程編成委員会等の位置付け</p> <p>作業療法分野に関する企業、団体等との連携体制を確保し、授業科目の開設、その他教育課程の編成を行うために、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成委員会構成員は学校法人森島学園と企業関係者等の外部役員から成るものとする。互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力しておこなうものと位置付けている。年2回の会議を開催し、学校側から議題を提案し、企業等から意見・要請を受け、それを生かした実践的かつ専門的な職業教育が主体的に実施されるよう取り組んでいる。</p>

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
三井 忍	公益社団法人静岡県作業療法士会 副会長 一般社団法人日本作業療法士協会 代議員 フジ虎ノ門整形外科病院	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	①②
岡庭 隆門	公益社団法人静岡県作業療法士会 会長 静岡県立こころの医療センター	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	①②
渡邊 智史	富士市特別支援教育センター	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	②③
内田 成男	富士リハビリテーション専門学校 学校長		
宮下 正好	富士リハビリテーション専門学校 教務部長		
中原留美子	富士リハビリテーション専門学校 作業療法学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年 2 回 （7月、1月）

（開催日時（実績））

平成30年度

第1回 平成30年6月20日（水） 16:00 ～ 17:30

第2回 平成31年1月23日（水） 16:00 ～ 17:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

〈カリキュラムの改善案等〉

- ・臨床実習の経過報告書の項目名について、分かりづらさがあったため、「基本的態度」「臨床的技能」「臨床思考過程」に訂正した。
- ・臨床実習での対象者への同意については、各施設で異なることがあるため、統一が難しい。守秘義務等臨床実習施設に対しての誓約書については、今年度から実施する。
- ・平成29年度からカリキュラムを改訂し、1年次より検査測定実習の授業にて、解剖学や運動学の知識と作業療法の関連性を具体的に実感してもらうことを取り入れることにより、解剖学や運動学の知識の定着が例年より効果がみられる。

〈今後の検討課題〉

- ・学生の共感性を高めるための授業の工夫が必要である。
- ・発達障害領域での実習について、目的を明確にし、実現可能な実習を計画すべきである。
- ・臨床実習の評価基準を明確にする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の患者さんに検査・測定・治療を実施できることを目的とするため、全ての授業を校外で行うことを基本方針とする。校外での実習となるため、各実習地に指導教員（臨床実習指導者）の選出を依頼し、その臨床実習指導者が学生の指導を行う。臨床実習指導者および実習地は、厚生労働省の基準を満たしていることを選定の条件としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

クリニカルクラークシップでの教育を教員と共にこなしていく。実習施設での施設概要やコンプライアンス等のオリエンテーションから、作業療法の業務内容や魅力を学生が体験することによって学習していく。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、作業療法業務を見学、体験する。実際に病院や施設などの作業療法士が働いている現場で学ぶことにより、職業に必要な知識・態度を実感し、身につけることを目的とする。	介護老人保健施設 ひろみ、日本平病院、沼津リハビリテーション病院、共立蒲原総合病院 ほか21施設
臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者のもと、検査・測定を中心とした作業療法の基本技能の実践を行う。基本的な技術の習得と、患者さんへの接し方を習得するのが目的となる。	富士整形外科病院、長岡リハビリテーション病院、静岡済生会総合病院、介護老人保健施設あすなる ほか29施設
臨床実習Ⅲ	臨床実習Ⅱの内容に加え、基本的な治療の実践まで行う。技術の習得とともに、患者さんの問題点の分析・治療計画の立案など、判断能力の習得も目的とし、作業療法士としての総合的な能力を構築していく。	静岡リハビリテーション病院、静岡リハビリテーション病院、富士いきいき病院、静岡県立こころの医療センター、白萩病院 ほか前期20施設・後期20施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員としての教育力向上、作業療法士としての治療技術向上、この2点を目的として研修活動を行うことを基本方針とする。

教育力向上については、全国リハビリテーション学校協会主催の教育研究大会への参加を、作業療法士としての技術向上については、臨床研修（週1回）実施や日本作業療法士協会や静岡県作業療法士会主催の学術大会等への参加を奨励している。また、新任教員にはPT・OT・ST養成施設教員等長期講習会の受講を義務付け、全教員が基本的な教育スキルを習得できるようにしている。これら研修活動は、学内で規程を設けそれに則って学科長が年間の計画を策定し、実施している。

その他の活動として、学内研修・法人内姉妹校との合同研修を行っている。いずれもFD活動の一環であり、FD委員会が企画して実施している。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 臨床研修（週1回）

各教員の専門領域での臨床実践のために、臨床施設に依頼し、研修を実施している。

2. 学術研修

第52回日本作業療法学会：中原留美子・岡本博行・植田伊津子

第31回静岡県作業療法学会：中原留美子・岡本博行・松尾祐介・中村毎途・市村紋子・植田伊津子・深澤めぐみ

第18回東海北陸作業療法学会：松尾祐介

第26回日本精神障害者リハビリテーション学会：深澤めぐみ

②指導力の修得・向上のための研修等

第31回教育研究大会・教員研修会：中村毎途
全国リハビリテーション学校協会 第5回東海ブロック教育部研修会：中村毎途
日本作業療法士協会 臨床実習指導者研修会：岡本博行
第4回クリニカル・クラークシップに基づく作業療法臨床教育研究会：市村紋子

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 臨床研修（週1回）

各教員の専門領域での臨床実践のために、臨床施設に依頼し、研修継続

2. 学術研修

第53回日本作業療法学会
第24回日本作業療法教育研究学術集会
第32回静岡県作業療法学会
第19回東海北陸作業療法学会
第27回精神障害者リハビリテーション学会

②指導力の修得・向上のための研修等

第32回教育研究大会・教員研修会
全国リハビリテーション学校協会 第6回東海ブロック教育部研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・専修学校における学校評価ガイドライン及び本校学則第4条に基づき、教育、組織及び運営並びに施設および設備等の状況を明確化する。
- ・本校自己点検評価の結果を基本として、学校関係者評価委員会の中で学校評価を実施する。
- ・本校の現状について、外部へ適切に公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	なし

※ (10) 及び (11) については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・ 学修成果について : 卒業生の社会貢献の状況の把握、公表。

- ・ 学生の募集と受入れについて : PTあるいはOTに特化したオープンキャンパスの企画。
- ・ 法令等の遵守について : ハラスメントに関する規定の作成。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿在 平成31年4月1日 現在

名 前	所 属	任 期	種 別
廣瀬 真人	富士整形外科病院	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業等委員
森 雄司	静岡医療センター／富士リハビリテーション専門学校 同窓会 会長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	卒業生
澤田 和也	介護老人保健施設ききよの郷	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	企業等委員
置塩 明美	富士リハビリテーション専門学校 後援会 副会長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	後援会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

URL : <https://www.morishima.ac.jp/fuji/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供はホームページ、スクールガイドを利用して公表

学校関係者評価委員には学校自己評価報告書等を資料として配布

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2) 各学科等の教育	学科紹介
(3) 教職員	教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ・課外活動
(6) 学生の生活支援	学生サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	学費・入学金サポート・優待制度
(8) 学校の財務	情報公開（財務状況）
(9) 学校評価	情報公開（学校評価報告書）
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	

※ (10) 及び (11) については任意記載。

(3) 情報提供方法 : ホームページ

URL : <https://www.morishima.ac.jp/fuji/>

事務担当責任者	フリガナ	ホリケ ヒデヒコ	所属部署	事務局
	氏名	堀池 英彦	役職名	事務長
	所在地	〒417-0061 静岡県富士市伝法2527-1		
	TEL	0545-55-3888	FAX	0545-55-3889
	E-mail	fuji@fj.morishima.ac.jp		

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成 30 年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 科 目	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報統計科学	アプリケーションの基本的な使い方を理解し、また、生物科学の理論の根拠としての統計学を学ぶ。	1 前後	60	4	○			○	○			
○			心理学	人間の行動や基礎にある原理を学び、こころの理解に必要な基本的知識を身につける。	1 前	30	2	○			○	○			
○			科学哲学	科学哲学の認識を経て、リハビリテーションに関わる者として、科学的、哲学的に自問していく素養を身につける。	1 前	30	2	○			○		○		
○			健康科学	心と身体の両面から健康を捕らえ直し、実習を通して基礎体力と人間性を磨く。	1 前後	30	1	○	△		○		○		
○			英語 I	基本的英会話と、医療現場で使用される可能性のある簡単な英会話および必要な単語を学んでいく。	1 前	30	2	○			○		○		
○			英語A	カルテに書かれている英語を理解すること、英語医療論文を読解する手段を知ること、医療現場での簡単なコミュニケーションを図れるように学ぶ。	1 後	15	1	○			○		○		
○			英語B	カルテに書かれている英語を理解すること、英語医療論文を読解する手段を知ること、医療現場での簡単なコミュニケーションを図れるように学ぶ。	1 後	15	1	○			○		○		
○			スポーツ科学	スポーツにおける動作の特徴、外傷障害について理解する。	2 前	30	2	○			○		○		
○			福祉環境論	障害者の住環境を整え、その人らしい生活を送れるように支援する知識や技術を身につける。	2 前	30	2	○			○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			解剖学Ⅰ	運動に必要な骨格系、筋系、脊髄神経を学ぶ	1 前	30	2	○			○	○			
○			解剖学Ⅱ	動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系・循環器系・消化器系について理解を深める。	1 前	30	2	○			○			○	
○			解剖学実習	人の体に触れ、動かせるようになるために、運動器の構造と機能を立体的に把握する。	1 前後	60	2		○		○		○		
○			生理学	運動器系、神経系、呼吸・循環系、消化器系、泌尿器系、内分泌系などの働きを理解する。	1 前	60	2	○			○			○	
○			運動学	身体運動とそのメカニズムについて理解し、理学療法・作業療法について運動学的思考が可能な基礎知識を身につける。	1 前後	60	2	○			○		○		
○			運動生理学実習	運動が人体に与える変化や影響について実習を通して理解を深める。	1 後	30	1		○		○		○		
○			人間発達学	人間の生涯にわたる変化を心の発達を中心に学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○		
○			人体構造学	理学療法・作業療法を行うのに必要な解剖学・運動学・生理学の知識を習得する。	3 前後	30	1	○			○		○		
○			病理学	病理学は疾病を「かたち」として理解し、それを臨床に応用することで疾病の理解と治療を理解する。	1 後	60	2	○			○			○	
○			臨床心理学	臨床心理学の概要を理解し、臨床心理学的視点を身につける。	1 後	30	1	○			○			○	
○			内科学Ⅰ	内科学概論と症候学・循環器・呼吸器疾患・消化器疾患・肝胆膵疾患について学ぶ。	1 後	30	1	○			○			○	
○			内科学Ⅱ	血液疾患・代謝性疾患・内分泌系疾患・泌尿器系疾患・免疫系疾患・感染症疾患・皮膚疾患について学ぶ。	2 前	30	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			神経内科学	神経症候および神経疾患の病態と診断、治療について理解を深め、対象疾患に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療への理解を深める。	2前	30	1	○			○			○		
○			整形外科学Ⅰ	整形外科の概論を理解するとともに、末梢性の外傷を中心に、検査（画像含む）、治療法（保存的、手術、薬物）等の概略を学習する。	1後	30	1	○			○				○	
○			整形外科学Ⅱ	整形外科Ⅰ以外の整形外科疾患について、各論的に学ぶ、臨床に即した知識の整理をする。	2前	30	1	○			○					○
○			小児科学	理学および作業療法の臨床で必要な、小児の成長と発達、小児保健、新生児・未熟児・小児期の疾患に関する基礎知識を習得する。	2前	15	1	○			○					○
○			精神医学Ⅰ	精神医学の概略を理解するとともに、脳器質性精神障害・てんかん・統合失調症などの症候学・診断・治療を学ぶ。	1前	30	1	○			○					○
○			精神医学Ⅱ	気分障害・神経症性障害・精神遅滞の症候学・診断・治療を理解する。また、精神障害とリハビリテーションとの関連を理解する。	1後	30	1	○			○					○
○			脳神経外科学	神経系の解剖・生理に関する正常の形態と機能を理解し、神経系の腫瘍・血管障害・外傷・機能的疾患・奇形などの病態と治療法を理解する。	1後	30	1	○			○					○
○			リハビリテーションと障害	理学療法・作業療法を行うのに必要な臨床医学の知識を習得する。	3前後	30	1	○			○					○
○			リハビリテーション概論	現代の医療・福祉分野におけるリハビリテーションを理解する。	1前	30	2	○			○					○
○			社会福祉概論	障害者の生活を支援する制度を理解し、社会的リハビリテーションのあり方を学ぶ。	1後	30	2	○			○					○
○			作業療法概論	作業療法の定義・歴史・位置づけ・作業の力・各領域の作業療法を学ぶ。	1前後	60	4	○			○					○
○			基礎作業学	作業と作業遂行の分析方法および援助方法を学ぶ。	1後	30	2	○	△		○					○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎作業学実習	作業療法における「作業」について、実際に経験することにより、作業分析の技術および作業の治療的応用について学び、理解する。	1 前後	60	2		○		○				
○			作業療法研究	研究法の基礎が理解でき、作業療法士が行う研究の手順がわかる。	3 前後	60	2	○	△		○		○		
○			検査測定実習	作業療法で対象者に行う評価の基礎事項を学ぶ。	1 前後	60	2		○		○		○		
○			身体障害作業療法評価学	身体障害領域の作業療法で用いられる評価について、目的・方法・手順・結果の解釈がわかる。	2 前	30	2	○			○		○		
○			精神障害作業療法評価学	精神障害をとらえる評価方法・技術を身につける。	4 前	60	2	○	△		○		△	○	
○			発達障害作業療法評価学	発達障害領域における作業療法評価の流れ・目的・方法を知ることができる。	2 前	30	2	○	△		○		○		
○			神経機能評価学	高次脳機能障害を持つ対象者への作業療法評価および関わりを理解する。	2 後	30	2	○			○		○		
○			作業療法評価学実習	作業療法を行う上で必要となる。基礎的な評価法を身につける。	2 前	30	1		○		○		○		
○			臨床作業療法評価学実習	疾患に対応した実践的な評価技術を身につける。	2 後	60	2		○		○		○		
○			事例報告演習	事例報告のための書式を学び、対象者に対して報告項目の選択や報告内容を身につける。	2 後	30	1		○		○		○		
○			中枢神経障害作業療法学	脳血管障害および脊髄損傷に対する作業療法の評価と治療の方法を理解する。	2 前	30	2	○			○		○		
○			中枢神経障害作業療法学実習	中枢神経障害（CVA・脊髄損傷）の心身機能・身体構造に関する評価の目的および方法を学び、対象者の立場に立って評価が実施できる。	2 前後	90	2		○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			神経筋疾患作業療法学	神経難病・神経筋疾患に対する作業療法の評価と治療の方法を理解する。	2前後	60	4	○			○	○			
○			日常生活技術学	作業療法で行う日常生活活動の評価とアプローチ方法がわかる。	2前	30	2	○			○	○			
○			日常生活技術学実習	日常生活活動の障害に対する作業療法評価・治療の基本技術を習得する。	2前	30	1		○		○	○			
○			身体障害作業療法学	身体障害領域の各疾患（整形外科、内部障害、腫瘍など）について、疾患特性・作業療法について理解する。	2前後	60	4	○			○	○	△	○	
○			身体障害作業療法学実習	身体障害領域の作業療法評価・治療技術について、演習を通して、具体的に学ぶ。	2後	30	1		○		○	○	△	○	
○			発達障害作業療法学	発達障害領域における作業療法の評価および治療について理解する。	2後	60	4	○			○	○	△	○	
○			精神障害作業療法学	精神科作業療法の概要を理解し、作業療法士に必要な面接力と観察力を養う。精神疾患・障害特性に応じた作業療法を理解する。	2後	60	4	○			○	△	○		
○			リハビリテーション関連機器	作業療法治療の手段である住宅改修・福祉機器について理解する。	2前	30	2	○	△		○	○			
○			義肢装具学	義肢装具使用者に対する作業療法士の役割を習得する。	2前	30	1	○	△		○	○			
○			臨床作業療法学	作業療法評価学・治療学の総合的な知識の理解を深める。	3前後	60	2	○			○	○			
○			臨床作業療法学実習	身体障害・精神障害領域での評価・治療技術を身につける。	3前後	60	2		○		○	○			
○			事例検討	それぞれの背景をもつ対象者に必要な評価から治療の流れがわかり、実行できる。	3前後	30	1	○	△		○	○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択科目	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			地域作業療法学	地域作業療法に関連する制度、対象領域、実践方法を理解する。	2前後	60	2	○			○	○			
○			地域作業療法学実習	地域作業療法に関連する実践を体験し、支援の在り方と作業療法士の役割を理解する。	2後	90	2				△	○	△	○	○
○			臨床実習Ⅰ	医療人としての好ましい態度を身につけ、作業療法の実際を見学、体験することにより、作業療法の具体的な業務を持つことができる。	1後	45	1					○		○	○
○			臨床実習Ⅱ	医療人としての好ましい態度を身につけ、指導者のもと、対象者に対し基本的な評価技術を実践し、作業療法治療実践の補助ができる。	2後	180	4					○		○	○
○			臨床実習Ⅲ	医療人としての好ましい態度を身につけ、指導者の指導を受けながら、対象者への一連の治療行為を実践することができる。	3前後	720	16					○		○	○
合計			62 科目		3285	単位時間		(127 単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：在籍学科で開設している科目をすべて合格していること。	1学年の学期区分	2 期
履修方法：学年ごとに開設している必修科目・選択科目を3ヶ年に分けて履修する。	1学期の授業期間	15 週